

アーティスト 29 名の新作が集結！
高島屋にまつわる歴史や資料からインスピレーションを受けた作品を一堂に展示

高島屋創業 190 周年

shikkai 「悉皆 - 風の時代の継承者たち -」

8月4日（水）より、日本橋高島屋を皮切りに高島屋各店にて順次開催

高島屋は、創業 190 周年を記念し、現代アーティスト 29 名による新作が一堂に会する美術展「悉皆 - 風の時代の継承者たち-」を、2021年8月4日（水）の日本橋高島屋での開催を皮切りに、高島屋大型各店(大阪、京都、横浜、新宿)にて順次開催します。

本展のタイトルでもある「悉皆（しっかい）」とは、「ことごとく」を意味し、呉服業では洗い・染織・刺繍など着物にかかわるすべてを請け負い、優れた職出先を仲介することを指します。それになぞらえ、高島屋が美の仲介者（プロデューサー）となり、高島屋史料館収蔵作品や、高島屋にまつわる歴史などをインスピレーションの源として、現代の表現者である 29 名のアーティストに新作を依頼し、本展にて一堂に発表します。

時代や表現方法を超え、美が姿を変えながらも新しい時代・空間へと継承されていくその様を、高島屋の美術画廊にてご堪能ください。



<出品作家（29名）>

青野 文昭	浅井 康宏	浅井 裕介	池田 晃将	池田 学	石黒賢一郎
今泉今右衛門	小野川直樹	笹井 史恵	重野 克明	諏訪 敦	田中 信行
田辺竹雲斎	束 芋	中村 弘峰	袴田京太郎	橋本 雅也	舟越 桂
前原 冬樹	増田 敏也	町田 久美	三沢 厚彦	ミヤケマイ	森村 泰昌
ヤノベケンジ	山口 英紀	山村 慎哉	山本 大貴	和田 的	

※50音順、敬称略

＜展示内容（一部）＞

・作家名：今泉今右衛門

1962年 佐賀県に生まれる

2014年 重要無形文化財「色絵磁器」保持者（人間国宝）に認定

2003年以降 高島屋 他各百貨店にて 個展開催



「色絵雪花墨色墨はじきみやま四季花文花瓶」

（径 33.2×高 26.0 cm、磁器・墨はじき 2021年）

※高島屋史料館所蔵品：前田青邨 作「みやまの四季を」を元に制作

[アーティストコメント]

この「みやまの四季」前田青邨画については、数年前、大阪・難波高島屋にて開催された「暮らしと美術と高島屋」展の会場にて初めて目にした。いくつかの木々が集まり、様々な花がひとつの森ようになって表現されている。それまで、橘は橘、梅は梅という認識で描いていた自分としては新鮮な驚きであった。

今回、改めて細部まで模写の気持ちで見ていくなかで、いろいろな鳥や動物、隠れていた花々、細やかな神経と自然に対する温かい眼差しが伝わってくるようで、その思いを込めて制作させていただいた。今回の取り組みにより、未来へ繋がる新しい発見が随所にあり、自分にとって有難い企画であった。有難うございました。（今泉今右衛門）

・作家名：束芋

1975年 兵庫県に生まれる

主な個展 2009年「断面の世代」 横浜美術館/神奈川・国立国際美術館/大阪

主なグループ展 2011年「第54回ヴェネチアビエンナーレ」日本館 / ヴェネチア、イタリア



©Tabaimo/Courtesy of Gallery Koyanagi

「富士」（作品上段 37,4×47,9cm）

「蓬莱山」（作品下段 59×72cm）

（和紙に墨、岩絵具 2021年）



制作の元となった高島屋史料館所蔵品：

横山大観 作「蓬莱山」

[アーティストコメント]

不老不死の薬を求めて、中国から東方の地にあるという蓬莱山を目指し、たどり着いた場所を徐福は気に入って永住したという。この徐福伝説は日本に幾つか存在するが、現存する和歌山の蓬莱山とよばれる山と富士山の位置関係から、横山大観が『蓬莱山』を描くにあたって参考にしたであろう徐福伝説の一つが浮かび上がる。徐福はそこを蓬莱山だと信じていたわけではないだろう。そこから仰ぎ見る富士の姿はそれこそ言い伝えられてきた蓬莱山のイメージに近かったのではないかな。

私が永住の地と決めた場所に至ったなら、そこから何を仰ぎ見るだろう。

大観の『蓬莱山』に描かれた険しい峰々、雲によって切り取られたその形が、私には女性が横たわった姿にしか見えなかった。そして富士は妊婦の身体に見えてくる。私には到達できなかった憧れの身体。命を作り出し、継続を可能にする場所。永住の地と決めた「命を生み出さなかった」私の身体が妊婦の身体を仰ぎ見る。人間を宿した女性の身体。その身体に私は憧れ続けるだろう。(束芋)

・作家名：森村泰昌

1951年 大阪府に生まれる

主な個展 2016年 森村泰昌自画像の美術史「私」と「わたし」が会うとき／国立国際美術館

主なグループ展 2018年 第12回上海ビエンナーレ／上海当代芸術博物館



©Yasumasa Morimura

「真似美絵（栖鳳先生のために）」

(55×28.3cm 和紙にインクジェットプリント 2021年)



制作の元となった高島屋史料館所蔵作品：

竹内栖鳳 作「アレタ立に」

[アーティストコメント]

高島屋所蔵の名品、竹内栖鳳作「アレタ立に」をテーマに、写真とデジタル技術を駆使したセルフポートレイトの写真作品を創作しました。無地の着物と帯を新しくあつらえました。扇は知人の手作り。頭は歌舞伎役者の知人に頼んで和カツラを用意していただきました。そして着物と帯の柄は栖鳳先生の絵からデジタル技術で抜き出してこれを合成。伝統と現代のテクノロジーをなんとか融合させたいと考えた、初めてづくしの挑戦でした。(森村泰昌)

・作家名：ヤノベケンジ

1965年 大阪府に生まれる

主な個展 2016年 ヤノベケンジ展「シネマトイズ」／高松市美術館、香川

主なグループ展 2019年 瀬戸内国際芸術祭



「Rose - The Sleeping Muse」
(ステンレス・スティール、FRP、真鍮他 2021年)



制作の元となった高島屋史料館所蔵品：
「ローズちゃん」

[アーティストコメント]

コンスタンティン・ブランクーシ作の「眠れるミューズ」(1910)へのオマージュ作品。眠るような表情の「ローズちゃん人形」を美の女神に重ね、あたかも美の永久冷凍保存器のような作品で恒久の美を未来に贈る 21世紀のタイムカプセルとする。作品は磨き上げられたステンレス・スティール。リベット留め丸窓からは「ローズちゃん人形」の寝顔を覗き見ることができる。(ヤノベケンジ)

■特別展示【日本橋店限定】

展覧会開催に合わせて、日本橋高島屋1階正面ホールと正面ウィンドウに、「公益信託タカシマヤ文化基金タカシマヤ美術賞」受賞者である金氏徹平氏と、グループ「目[mé]」の作品を特別に展示します。

[展示期間] 2021年7月14日(水)～8月17日(火)

※展示イメージ

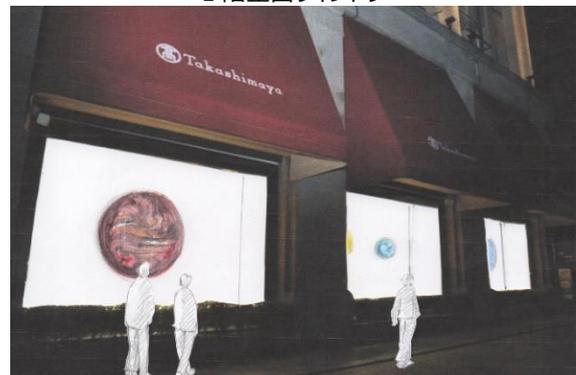
1階正面ホール



「Ghost in the Liquid Room (Make-up Shadow / Ground Floor)」

金氏 徹平 Teppei Kaneuji

1階正面ウィンドウ



「アクリルガス 2019-2021」

目 [mé]

<会場情報>

- ・**会期・会場** : 2021年8月4日(水)～8月17日(火) 日本橋高島屋 S.C.本館 6階美術画廊
2021年9月29日(水)～10月5日(火) 大阪高島屋 6階美術画廊
2021年11月24日(水)～11月30日(火) 京都高島屋 6階美術画廊
2021年12月15日(水)～12月21日(火) 横浜高島屋 7階美術画廊
2022年1月19日(水)～1月31日(月) 新宿高島屋 10階美術画廊
※営業日・営業時間につきましては、ホームページをご覧ください。
※各会場とも、会期最終日は午後4時閉場です。
- ・**WEB サイト** : <https://www.takashimaya.co.jp/store/special/shikkai/index.html>